

CASBEE[®]京都-新築

評価ソフト(標準システム)

バージョン CASBEE京都-新築2018(v.1.0)
■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版

1) 概要入力

① 建物概要

■ 建物名称	学校法人京都女子学園 京都女子大学A・Q校舎	
■ 建設地・地域区分	京都市東山区今熊野北日吉町35番地(一部)他20筆	6地域
■ 地域・地区	市街化区域, 防火地域	
■ 竣工年(予定/竣工)	2024年8月	予定
■ 敷地面積	12455.86	m ²
■ 建築面積	1892.44	m ²
■ 延床面積	5,505.88	m ²
■ 建物用途名	学校	
	学校,	
■ 階数	F、地上3F、塔屋1F	
■ 構造	S造	
■ 平均居住人員	500	人(想定値)
■ 年間使用時間	2,400	時間/年(想定値)

② 評価の実施

■ 評価の実施	2022年9月30日	実施設計段階
■ 作成者	縦山由佳	
■ 確認日	2022年10月15日	
■ 確認者	恵本涼太郎	
■ LCCO2の計算	標準計算	→LCCO2算定条件シート(標準計算)を入力

2) 個別用途入力

① 用途別延床面積

事務所	0.00	m ²	事務所		m ²
			官公庁		m ²
学校	5,505.88	m ²	幼稚園・保育園		m ²
			小・中学校		m ²
			小・中学校(北海道以外)		m ²
			高校		m ²
			大学・専門学校	5505.88	m ²
物販店	0.00	m ²	デパート・スーパー		m ²
			その他物販		m ²
飲食店		m ²			
集会所	0.00	m ²	劇場・ホール		m ²
			展示施設		m ²
			スポーツ施設		m ²
工場		m ²	うち省エネ計画対象面積		m ²
病院		m ²			
ホテル		m ²			
非住宅 小計	5,505.88	m ²			
集合住宅	0.00	m ²	専用部		m ²
			共用部		m ²

② 住居・宿泊部分の比率

■ 病院の延床面積のうち, 病室部分の床面積の比率	
■ ホテルの延床面積のうち, 宿泊部分の床面積の比率	
■ 集合住宅の延床面積のうち, 住戸部分の床面積の比率	0.00

1 建物概要		BEE		1.7	A	★★★★★
建物名称	学校法人京都女子学園 京都女子大学A・Q校舎					
延床面積	5,505.88 m ²					
用途	学校					使用CASBEE評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
	学校					使用CASBEE評価ソフト CASBEE 京都-新築2018(v.1.0)
2 重点項目への取組度						
キーワード		取組度				
1 大切に使う		   				
2 とともに住まう		   				
3 自然からつくる		  				
3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア						
1 大切に使う		合計点 29 / 41				
■長寿命化		合計点 13 / 20				
◇メンテナンスの容易性		◇物理的長寿命				
Q2/ 3.3.1 空調配管の更新性	スコア 3	Q2/ 2.2.1 躯体材料の耐用年数	スコア 3			
Q2/ 3.3.2 給排水管の更新性	スコア 2	EOPタイル張り(弾性接着剤)、RC、アルミサッシ等30年以上	スコア 3			
Q2/ 3.3.3 電気配線の更新性	スコア 3	タイルカーペット、クロス20年以上、ボード類(天)25年以上	スコア 3			
Q2/ 3.3.4 通信配線の更新性	スコア 3	◇社会的長寿命				
Q2/ 3.3.5 設備機器の更新性	スコア 4	Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3			
(注 上記5項目のスコアの平均が合計点に加算される)		Q2/ 3.1.2 空間の形状・自由さ	スコア 4			
<自由記述>		京都市建築物等のバリアフリーの促進に関する条例に対応 PS.DSはコアに集約。乾式壁の採用				
■省資源		合計点 15 / 20				
LR2/ 2.1 材料使用量の削減	スコア 2					
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	スコア 3					
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	スコア 5					
LR2/ 2.6 部材の再利用可能性向上への取組	スコア 5					
<自由記述>						
◆独自加点項目		合計点 1 / 1				
LR2/ 2.1 材料使用量の削減	主要構造部が木造躯体である場合で、「持続可能な森林から産出された木材」を使用しており、うち地域産木材を使用している。					
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	主要構造部に使用した「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。					
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。					
2 とともに住まう		合計点 33 / 42				
■自然とともに住まう		合計点 11 / 15				
◇自然を感じられる計画		◇地域環境やコミュニティへの配慮				
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観	スコア 5	Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア 5			
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 4	LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3			
Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 3	LR3/ 3.3.2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	スコア 3			
キャンパス全体の統一感あるデザイン		<自由記述>				
■歴史とともに住まう		合計点 10 / 10				
◇歴史性への配慮						
Q2/ 1.2.3 内装計画	スコア 5					
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア 5					
<自由記述>						
◆独自加点項目		合計点 0 / 2				
LR3/ 3.3.2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	京都重点項目による加点により、レベル5を超える。 格子状ルーバーや簾状スクリーンによりガラス面等の反射光を抑制している、または外壁に反射率の低い自然素材を採用している等の推奨内容の取組みを、1以上実施している。					
3 自然からつくる		合計点 32 / 50				
■自然材料の利用		合計点 13 / 15				
Q2/ 1.2.3 内装計画		スコア 5				
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上		スコア 5				
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材		スコア 3				
<自由記述>						
■自然環境の利用		合計点 16 / 30				
Q1/ 3.1.1 星光率	スコア 1	LR1/ 2 自然エネルギー利用	スコア 3			
Q1/ 3.1.3 星光利用設備	スコア 3	LR2/ 1.2.1 雨水利用システム	スコア 3			
Q1/ 3.2.1 星光制御	スコア 3					
Q1/ 4.2.2 自然換気性能	スコア 3					
<自由記述>						
◆独自加点項目		合計点 3 / 5				
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。					
Q1/ 3.1.3 星光利用設備	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の星光利用設備を採用している。					
Q1/ 3.2.1 星光制御	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の星光利用設備を採用している。					
LR1/ 3 設備システムの高効率化	評価する取組みのうち、何れかの手法が採用されている。(但し、モニュメントの計画を除く) 上記の内容に加え、利用量が15MJ/m ² ・年以上となる場合。					
4 低炭素景観の創出に関する評価						
☑ Q1/3.1.3 星光利用設備		☐ Q1/3.2.1 星光制御		☑ Q3/1 生物環境の保全と創出		
☐ Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上		☐ LR3/2.2 温熱環境悪化の改善		☐ LR3/3.3.2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		
				低炭素景観	2/6項目	
				取組数		
5 ライフサイクルCO ₂ とCO ₂ 削減率						
ライフサイクルCO ₂ (ライフサイクルCO ₂ 参照値) CO ₂ 削減量		57.01 kg-CO ₂ /年m ² 68.58 kg-CO ₂ /年m ² -11.58 kg-CO ₂ /年m ²		ライフサイクル CO ₂ 削減率	+16.9%	
6 ウッドマイレージCO ₂ とCO ₂ 削減率						
ウッドマイレージCO ₂ CO ₂ 削減効果				ウッドマイレージ CO ₂ 削減率	0%	

:「ウッドマイレージ計算書」から転写:自由記述入力欄

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	学校法人京都女子学園 京都女子大学A・Q校舎	階数	地下1F、地上3F、塔屋1F
建設地	京都市東山区今熊野北日吉町35番地(一部)他20番	構造	S造
用途地域	市街化区域、防火地域	平均居住人員	500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年8月 予定	評価の実施日	2022年9月30日
敷地面積	12,455.86 m ²	作成者	横山由佳
建築面積	1,892.44 m ²	確認日	2022年10月15日
延床面積	5,505.88 m ²	確認者	惠本涼太郎



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.7 ★★★★★★☆☆☆☆ S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 環境品質 G 環境負荷 L	★☆☆☆☆ 30% ★☆☆☆☆ 60% ★☆☆☆☆ 80% ★☆☆☆☆ 100% ★☆☆☆☆ 100%超: ☆ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ 0 46 92 (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)	Q のスコア = 3.6		
Q 環境品質	Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
	Q1のスコア = 3.1	Q2のスコア = 3.5	Q3のスコア = 4.4
	音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	機能性 耐用性 対応性	生物環境 まちなみ 地域性
LR 環境負荷低減性	LR のスコア = 3.4		
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	
LR1のスコア = 3.6	LR2のスコア = 3.5	LR3のスコア = 3.1	
建物外皮の 自然エネルギー 設備システム 効率的	水資源 非再生材料の 汚染物質	地球温暖化 地域環境 周辺環境	

3 設計上の配慮事項	その他	
総合 ・キャンパスのデザインコードであるレンガタイルや勾配屋根を用いて、既存校舎群と一体感がある外観デザインとした。		
Q1 室内環境 Low-Eガラスを全面に採用し、各窓にはブラインドを設置して日射制御をコントロール。中間期には自然換気が出るようボツ窓には網戸を設置して個別制御が可能な計画とした。	Q2 サービス性能 ・設計時よりコンセプトを元にパースにて、室内イメージを確認している。 ・事務室は、OAフロアを設置し、建物中央部は12.85mの無柱空間とし、将来の間仕切り変更にもフレキシブルに対応している。	Q3 室外環境(敷地内) ・南側のCWは小割とし、各ボツ窓には格子をつけることで、建物のスケール感を低減するように配慮した。外装はキャンパスのデザインコードであるレンガタイルや勾配屋根を用いて、既存校舎群と一体感あるデザインとした。
LR1 エネルギー ・個別空調、全熱交換器の採用 ・LED照明の採用	LR2 資源・マテリアル ・内装はLGSを採用。階高を確保し、OAフロアの設置、天井内のスペースを確保することで、設備の更新を見越した計画としている。	LR3 敷地外環境 ・底の設置、建屋のセットバックにより、風害を低減。 ・北側隣地との離隔を十分にとり、日影、プライバシーに配慮。 ・室外機等は屋上に設けて騒音を低減。 ・広告物証明は行っていない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
学校法人京都女子学園 京都女子大学A・Q校舎

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										3.6
Q1 室内環境					0.40		-			3.1
1 音環境				3.5	0.15		-			3.5
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-			
1.2 遮音				3.9	0.40		-			
1 開口部遮音性能			全面T-2以上	5.0	0.30	3.0	-			
2 界壁遮音性能			各室間FWG(TLD-52)を設置	4.0	0.30	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20	3.0	-			
1.3 吸音			天井と床に吸音材料使用	4.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境				2.6	0.35		-			2.6
2.1 室温制御				3.0	0.50		-			
1 室温				3.0	0.60	3.0	-			
2 外皮性能				3.0	0.40	3.0	-			
3 ゾーン別制御性				3.0	-		-			
2.2 湿度制御				1.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式				3.0	0.30	1.0	-			
3 光・視環境				2.6	0.25		-			2.6
3.1 昼光利用				1.8	0.30		-			
1 昼光率	●自然	A(全国版準用)		1.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口					-		-			
3 昼光利用設備	●自然	B(推奨内容)	庇あり	3.0	0.40		-			
3.2 グレア対策				3.0	0.30		-			
1 昼光制御	●自然	B(推奨内容)		3.0	1.00	3.0	-			
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-			
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-			
4 空気質環境				4.0	0.25		-			4.0
4.1 発生源対策				5.0	0.50		-			
1 化学汚染物質			全面的にF☆☆☆☆を使用	5.0	1.00	3.0	-			
4.2 換気				3.0	0.30		-			
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-			
4.3 運用管理				3.0	0.20		-			
1 CO ₂ の監視				1.0	0.50		-			
2 喫煙の制御			建物全体が禁煙	5.0	0.50		-			
Q2 サービス性能				-	0.30		-			3.5
1 機能性				3.9	0.40		-			3.9
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40		-			
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-			
3 バリアフリー計画	●大切	D(独自基準)		3.0	1.00		-			
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30		-			
1 広さ感・景観 (天井高)	●とも	C(独自加算)	天井高:礼拝堂3.1m、講堂2.7~5.55m	5.0	0.50	3.0	-			
2 リフレッシュスペース				3.0	-		-			
3 内装計画	●自然	D(独自基準)	バースにて内装計画を実施。京都産の木材使用	5.0	0.50		-			
1.3 維持管理				4.0	0.30		-			
1 維持管理に配慮した設計			キッチン、WCのVVS採用、厨房のFLP採用、屋外階段手摺は溶融亜鉛めっきのまま	3.0	0.50		-			
2 維持管理用機能の確保			管理倉庫や各階SKの設置。PS、EPS等は共用部からのアクセス可能な設計	5.0	0.50		-			
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30		-			3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-			
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-			
2.2 部品・部材の耐用年数				4.1	0.30		-			
1 躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20		-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			タイル貼り:40年、アルミサッシ:40年	5.0	0.20		-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			ビニルタイル、シート18~30年、天井ボード類25年	4.0	0.10		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			厨房ダクトに溶融アルミニウム垂鉛メッキ鋼板(ガルバリウム鋼板)を採用	5.0	0.10		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			給水配管B、排水配管B、冷温水配管D	5.0	0.20		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-			

2.4 信頼性	1	空調・換気設備				2.2	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備				1.0	0.20	-	-	
	3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法				1.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性						3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり						3.4	0.30	-	-	
1 階高のゆとり						3.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ						4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり						4.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性						3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性						3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性						2.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性						4.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保						3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.30	-	-	4.4
1 生物環境の保全と創出						4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮						5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮						4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上						5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上						3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制						5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用						3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化						3.5	0.50	-	-	3.5
4 効率的運用						3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価						3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング						3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制						3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価						3.0	-	-	-	
4.1 モニタリング						3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制						3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護						3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水						4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無						3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無						3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減						3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減						2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用						3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用						3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用						5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材						3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み						5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避						3.0	0.70	-	-	
1 消火剤						-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)						3.0	0.50	-	-	
3 冷媒						3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮						3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮						2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止						3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善						3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制						2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減						1.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制						4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制						3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮						3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-	
1 騒音						3.0	0.50	-	-	
2 振動						3.0	0.50	-	-	
3 悪臭						-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制						2.3	0.40	-	-	
1 風害の抑制						2.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制						3.0	0.30	-	-	
3 日照障害の抑制						4.4	0.20	-	-	
3.3 光害の抑制						5.0	0.70	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						3.0	0.30	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる